

## 気になる山と越後の名山に登る 鹿俣山・巻機山

実施日 2009年10月12日(祝月)～13日(火)  
 天候 晴  
 リーダー 涌井 良明  
 参加者 若村貴世子、齋恵美子、馬場清土、  
 涌井良明、鈴木恵美子 計5名  
 費用 交通費5,000円 宿泊費7,000円  
 計12,000円  
 タイム 12日 荻窪駅北口(6:00)玉原高原  
 センターハウス(8:18～8:20)玉原  
 湿原入口(8:32～43)三角  
 点分岐(8:55)三角点(9:25  
 ～9:33)鹿俣山頂(11:05～  
 11:43 昼食)玉原高原セン  
 ターハウス(13:17～13:30)清水民  
 宿上田屋(15:30) 泊  
 13日 上田屋(5:30)桜坂駐車場  
 (5:35～5:45)4 合目(6:38～  
 6:42)5 合目(7:54)6 合目  
 (7:54～8:00)7 合目(8:37～  
 8:47)避難小屋(9:50～  
 10:00)巻機山頂(11:20～  
 11:30)朝日岳縦走分岐点  
 (11:45～11:05 昼食)巻機  
 山頂(11:20)7 合目(12:25  
 ～12:29)5 合目(13:18)登  
 山口(14:02)桜坂駐車場  
 (14:05)

3連休最終日からクルマ使用で上州と越後の2山を訪ねる計画である。天候にも恵まれ素晴らしい山と紅葉を存分に楽しめた山行となった。

12日 鹿俣山(カマタマ)

快晴の玉原高原センターハウスをスタート、舗装路を10分程進み玉原湿原入口から木道に入る。僅かで山に囲まれた湿原に出る、それほど



広くはないが好ましい感じだ、草紅葉の中に木道が左右に伸びるが右回りで湿原の奥から山道に入る。ブナ平を示す道標がしっかり設置しており、我々は三角点経由の道を行く。

きつい登りもなく三角点へ、一息入れ短く下って湿原への道を分けるとブナ林

が広がり、根が地蔵に見えるブナ地蔵などを見て楽しみながらのんびり歩く。



スキーゲレンデをからんで登山道標目に従って山頂を目指す、標高が上がる周囲の紅葉もその濃さを増し目を楽

しませてくれる。また、谷川の山稜もくっきりと姿を見せてくれている。直下の短い急登過ぎた先が鹿俣山頂だった、わりと狭い山頂で既に数パーティの先客もいた。眼下に玉原湖がこじんまりと広がり、周囲のニケ禿山や北方に岩を纏った獅子ヶ鼻山が望める。



秋を感じながらゆったりと昼食にした。下山は山頂直下の分岐から南へ下る道をとる、整備されてはいるが通過者はそれ程多くない感じである。途中ゲレンデ



内を下りラベンダーパークを過ぎ、更に下ってから右側の湿原を示す山道に入る。マユミの赤い実でひとしきり盛上って木漏れ日の静かな森の道を遊びながら歩き、センターハウスまで戻った。

明日への足馴らしとしても充分の楽しい歩きだった。

陽はまだ高いが明日の目的地へ向かう。石打・塩沢 IC から六日町の清水集落の民宿上田屋へ。丁度巻機山入口にある宿は山菜づくしの食事で参加のベジタリアン諸氏も満足いただけただようで、明日の好天を期待した前夜祭をして就寝です。

13日 巻機山(マキタマ)

天気予報ではあまり芳しくなかったが、頭上は星空でまずはホッとす。

5時半に宿を後に桜坂駐車場に向かう、昨日は100台以上も入ったらしい駐車場も今日は先着車が1台のみ、5時45分に出発。すぐに沢コースを分けて井戸尾根の登りになる、二セ巻機迄登りっぱなしの尾根道である。

岩の多い取り付きから粘土質のぬかるんだ登りになって行く、一昨日まで降っ

ていた雨のせいか滑りやすい泥道となっている。3合目から合目標を目安にゆっくりと登る。4合目を過ぎるとブナ林が現れ朝日が差し込み美しい、5合目の標柱で米子沢の全景が見渡せ、美しいナメ滝をいくつもかけながら頂稜まで伸びあがっている様は実に爽快である。



再びブナ美林に慰められて、徐々にぬかるみも減って足の置き場も楽になるものの傾斜が緩くなることはないが、所どころに設け

られた展望台望む天狗岩が高さのバロメータになる、また最上級の秋の衣を纏った割引岳が美しい。

登るにつれて紅葉の美しさも増し、前方下方、更に左右の鮮やかさに思わず足を止められてしまう。

灌木帯を抜けた7合目が森林限界で一気に展望が開けるが、頭上の頂稜はまだまだ高い、しかし周囲の美しさが疲れを感じさせない、こんな歓迎をしてくれた天候とマキハタサンに感謝である。

流出防止が施され、歩き易く工夫もされた木段のジグザク道を辿り尾根に辿り着くと更に素晴らしい山上の絵画に歓声が上がる。なんとまあ！！

右に米子沢ノ頭から本峰へ繋がるどっしりとした山肌はこの季節ならではのカラーモザイクに彩られ、正面には割引岳をアクセントに巻機山がおおらかな山容を見せ、透明のブルーバックとの見事なコントラストを見せ、ただただ見とれてしまう。自然が5人に用意してくれた贈り物である。



右に米子沢ノ頭から本峰へ繋がるどっしりとした山肌はこの季節ならではのカラーモザイクに彩られ、正面には割引岳をアクセントに巻機山がおおらかな山容を見せ、透明のブルーバックとの見事なコントラストを見せ、ただただ見とれてしまう。自然が5人に用意してくれた贈り物である。

道は避難小屋の建つ米子沢の源頭の鞍部まで下り、笹の斜面に付けられた木段を登りつめると、山頂を示す標柱のある稜線に着いた。

道は避難小屋の建つ米子沢の源頭の鞍部まで下り、笹の斜面に付けられた木段を登りつめると、山頂を示す標柱のある稜線に着いた。

稜線を越した北側には越後三山が存在感のある姿を見せている。快晴、無風、眺望とこれでもかと条件の揃った今日に登らせてくれた全てにものに感謝したい気持ちである。



写真を撮ってから牛ヶ岳方面へ15分歩程歩き、朝日岳への縦走路分岐で昼食にした。もう35年前だが牛ヶ岳から中ノ岳へ

3日かけて縦走したことが思い出された。

山頂標柱まで戻り、11時20分、往路を下山開始した、九合目の二セ巻機で名残を惜しんだ後は下るのみであるが、登りとはまた一味

違う美しさを見せてくれる山を存分に堪能しながら、飽きることなく実に快適なピッチで下り、心配した下部のぬかるみも難なく通過、駐車場に下り着いた。ア～楽しかった！



宿泊した上田屋で山菜が山盛になった文字通りの山菜だらけそばに舌鼓をうって帰京となった。

今回の山行は、山、季節、天候、宿舎、勿論メンバーと、うまい具合に恵まれて自分には今年最優秀山行の一つになった。

両日とも最高の好天に恵まれ、秋真っ只中の山歩きを存分に楽しむことが出来た。特に巻機山は平日に登ったため100名山人気にも煩わされることもなく、あの素晴らしい山を貸切り状態で歩くことが出来たのは本当に嬉しかった。

また、民宿の感じも良く、食事も美味しく、機会があればまた行ってみたいと思わせる宿であった。

（記&写真・涌井 良明）

